

支部長は郵便局長

菅原 浩二

香川県



ゆったりとした手話が菅原さんの持ち味



窓口にろうあ者が来るとがぜん張りきっちゃいます。



朝のミーティング、しっかり局長しています

高松市の手話通訳派遣拒否裁判の原告の池川さんと



菅原浩二さんは高松林郵便局長を務める異色の全通研の支部長だ。忙しい毎日の業務とともに、支部長として、また四国ブロック長として責務を果たす。局長席に座っているのは、ほんの一時で業務の手薄な郵便・貯金窓口、ゆうパックなどの販売・受取りとコマネズミのごとく動いている菅原さんの姿があった。窓口にはろうあ者も来ることがある。そんな時は菅原さんの手話が輝いて見える。

今、香川では全国に注目されている裁判がある。高松市の手話通訳派遣拒否裁判だ。香川県聴覚障害者協会、全通研香川支部が高松市の手話通訳派遣を考える会を結成して裁判を支援していくことになった。菅原さんは考える会副事務局長の立場で裁判にかかわっている。



高知集会で香川の仲間と手話通訳に向かう



讃岐うどんで資金集め

全国でも裁判には至らないけれどよく似た事例があり、今後の手話通訳派遣の行末を左右する事例だけに、全日本ろうあ連盟、全通研とともに全面的に支援していくことになった。第45回全国手話通訳問題研究集会in高知で急遽シンポジウムが開かれ、2会場満席の盛況ぶりが全国の関心の高さを示している。

「裁判にはお金がかかりますから、全国の支援をぜひお願いしたい」集会会場の販売コーナーで香川のうどんを売って運動資金作りに精を出す菅原さんと原告の池川さんの姿があった。

高知集会の裁判シンポジウムで池川さんが発言



真剣なまなざしで池川さんの発言を見つめる





高知集会に参加した香川のメンバーと

手話との出会いは大学の手話サークルで、同期には京都の鈴木唯美さんがいる。菅原さんが部長で鈴木さんは副部長。手話論、ろうあ者福祉など大いに議論を闘わせた仲間だ。

菅原さんについて四国ブロックの愛媛、高知、徳島の支部長3人が「みんなの意見をじっくり聞いてくれて、脱線したとき修正してくれ、きっちりまとめてくれる頼もしい四国ブロック長」との意見を寄せてくれた。しかし、菅原さんはけっして寡黙なタイプではないし、本人にこのことを確認すると

「(支部長の) 愛媛の森川さん、高知の前田さん、徳島の戎さん、3人が寄ればマシンガントークですから、私が口をはさむ余裕は一瞬たりともありません。3人がしゃべり疲れたその隙をねらって、口をはさむからそんな印象なんでしょう」

とのこと。菅原さんご苦労さま。

今回の高知集会には香川支部からは8人の参加で、昼は分科会などで手話通訳。香川のブースで讃岐うどんを売り、夜は皆でホテル近くの屋台で交流。菅原さんは相変わらず、コマネズミのようによく動きまわっていた。

「集会の通訳ご苦労さま、明日もよろしく」ビールが入ると饒舌になる菅原さん



写真・文 豆塚 猛